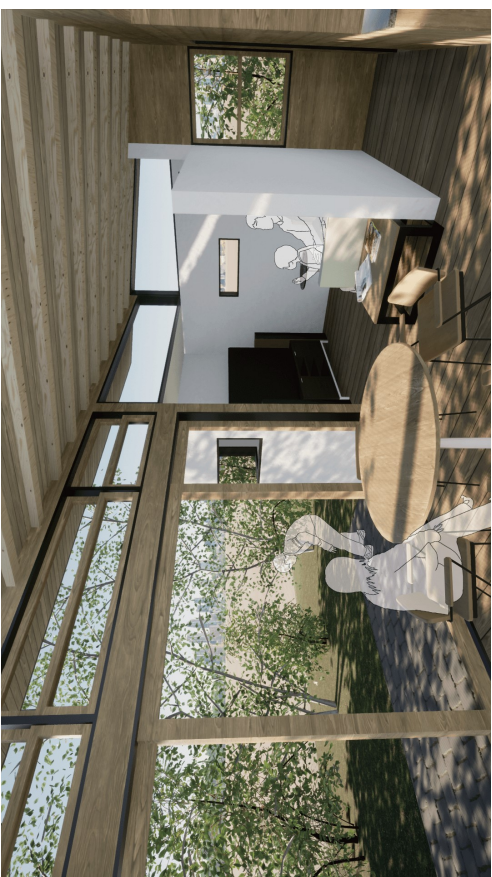


繋がりの空間では  
南側には大きなテラスと  
と自然豊かな庭が広がる。  
天気の良い日にはテラス  
で食卓を囲む。自然に囲ま  
れたの食事は一味も二味も  
美味しく感じられる。

リビングは個室から離れ、  
ちょっとした秘密基地のよ  
うになっている。ここでは  
家族が集って映画を見たり  
ゲームをしたりする。ひっ  
そりとした場所は家族の仲  
の深まる場所である。



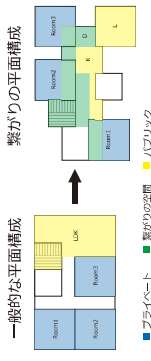
## 繋がりの住処



### 設計趣旨

現代における一般的な住宅の部屋の  
配置は、家族それぞれのプライベート  
を確保するために独立したものととなっ  
ている。このような住空間への変化に  
加え、インターネットの普及により家  
族同士のコミュニケーションの機会は  
少なくなっている。様々な要因によ  
り家庭内の関係が失われつつある今、  
住空間を見直すことで新たな価値観を  
生み出し、家族みんなが住まうこと  
の豊かさを取り戻すことができるのは  
ないかと考える。

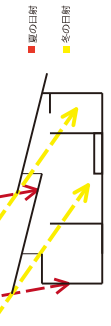
### ダイアグラム



一般的な平面構成  
繋がりの平面構成

一般的な平面構成における各部屋を分解し、  
ダイニングや和室のような自然と人が自然と集  
まる空間をプライベートな個室に隣接させるこ  
とで両端の空間性質をもつ「繋がりの空間」  
が生まれる。そこでは家族同士のコミュニケー  
ションや親密な関係が生まれる。

### 二つの片流れ屋根による空間操作



南側に対して大きく開き、深い軒を伸ばす  
片流れ屋根をかけることで、夏の暑い日差し  
を遮りつつ冬の暖かい日差しを取り込む。  
個室の上部は開かれており、屋根に広がる  
光が入り込む。空間的な連続により、プライ  
ベシーを守りつつお互いの存在を感じられる。



子どもたちの学習机は繋がりの空間にある。子どもたちは学校  
から帰るとそこで勉強や宿題をこなす。親は家事の合間に子ども  
たちの勉強をみたり今日の出来事をお互いに話したりする。

個室の上部は吹き抜けであり、大きな屋根によりそれぞれの  
空間は連続する。扉を開けてプライベートになりつつも、隣接  
する部屋にいる人の活動を感じることができる。

### 木に包まれる空間

内装や外装の仕上げには京都府内産  
のスギ、ヒノキを用いる。  
落ち着いた色を塗装したスギ板によ  
る内装仕上げは、工業製品には美現で  
きない空間の豊かさをもたらす。  
天井や建具にはヒノキを用いる。ス  
ギとヒノキを使い分けることで、全体  
として空間内に色のグラデーションが  
生まれ、居心地のよい住環境となる。

木材は手触りがよく温かみがあり、  
親しみがわきやすい。長く使うほど味  
わいが増していくため、木材とともに  
成長していくような親近感を感じる。

